

近藤 尚己

山梨大学大学院 医学工学総合研究部 社会医学講座 助教

ソーシャル・キャピタルが要介護状態の発生

および生命予後に与える影響に関する疫学的縦断研究

橋渡し型および結束型のソーシャル・キャピタル(SC)、および山梨県などで盛んに行われている伝統的な結束型 SC である無尽講が、高齢者の要介護リスク・死亡リスクに与える効果を明らかにすることを目的として、Y-HALE Study において、山梨県の健康な地域高齢者 562 名を 4 年間追跡したデータを用いて、統計的に検討した。その結果、幅広い社会活動に代表される橋渡し型 SC が高い人ほど、要介護認定を受けにくく、早期死亡リスクも低かった。一方、近隣同士の密接な関係性に代表される結束型 SC と上記の健康リスクとの関連は明らかではなかった。また、無尽への参加の強度が高く、それを楽しみととらえている人ほど、同健康リスクが低い傾向が示されたが、社会活動に関する橋渡し型 SC ほど強い効果は無く、金融的性質の強い無尽では逆に同健康リスクを増加させる可能性が示された。以上から、橋渡し型 SC は高齢者の健康増進によい効果をもたらすこと、無尽にも同様の効果がある可能性が考えられること、そして結束型 SC の健康への効果は、SC の性質や地域社会状況に強く影響を受ける可能性があることが示唆された。